

星城

Seijoh Art Museum

美術館

vol. 5

霊峰の夜明け

だお
蛇雄 (1948~)

2005年制作 油彩

この作品は、愛知万博日本館の館長室などに展示され、天皇、皇后両陛下を始め、皇太子、小泉総理など多くの方々が熱心にご覧になられたものです。

油彩特集

星城美術館には油彩（洋画）、日本画、彫刻、書など約80点の作品があります。その中でも全体の約3分の1は油彩（洋画）です。そのほとんどは愛知県ゆかりの作家のものや、有名な画家の作品が多く、また本校卒業生のものも多くあります。これらの作品は、本校の各所に点在し、直接本物が生徒たちの目にふれる場所に掲げてあり、情操教育の一環としての目的を果たしています。また、一般公開もいたしておりますので、各種団体、個人の方々にもご鑑賞いただけます。



杉本 健吉 作 「遊蝶花」

画中のパンジーは実にいきいきと描かれています。花瓶や背景を含めてひとつの快いリズムを作り出しています。作者は、生涯にわたり、洋画・日本画という枠組みをこえて、自由に描き続けました。



三岸 節子 作 「火の山にて飛ぶ鳥」

本作品は、戦後ますます力強さを加えた作風をもとに軽井沢の山荘で鳥の飛ぶ姿を描いたものです。「火の山」とは近くの浅間山で、生命感にあふれる鳥の飛ぶ姿に、自らもそうでありたいという願いをこめて制作しています。



笠井 誠一 作 「赤いポットのある卓上静物」

静物画は、身近な物との対話から創作が始まりますが、次に対象物の配置の工夫によって様々な関係の面白さが見えてきます。これを両面の中に置き換えると構図になり、構図の追求が作者の長年のテーマになっています。



島田 章三 作 「花と人の空間」

キュビズム（立体派）を根底に叙情性ゆたかな画風で日常生活の「かたち」を追求し、「かたちびと」という言葉で表わされる独自の世界を構築。マチエール（絵肌）の複雑な変化などによって抽象画にも見えます。



橋本 博英 作 「麦秋の丘」

「麦秋」とは季節は秋に思われがち。しかし実際は、麦の穂が実り収穫期を迎えた梅雨入り前の初夏のこと。雄大な空の下には濃緑の大地に、こがね色の実を輝かせた麦畑。今にもこの中を駆け巡りたくなるようです。



橋本 博英 作 「初夏の明神ヶ岳」

じっくりとこの絵を眺めてください。きれいな風景の奥に何か見えてきましたか。画家は、アトリエ近くの何気ない風景でも、その美しさに感動する心を持っていました。日本のさわやかな「初夏」をそのまま描きだしています。

この作品は、対象が緻密に描かれています。しかしそれだけではありません。じっと目をこらして見てみると、細かい花に、いのちが感じられます。そして画面全体から、私たちの心に深く響く何か伝わってきませんか。



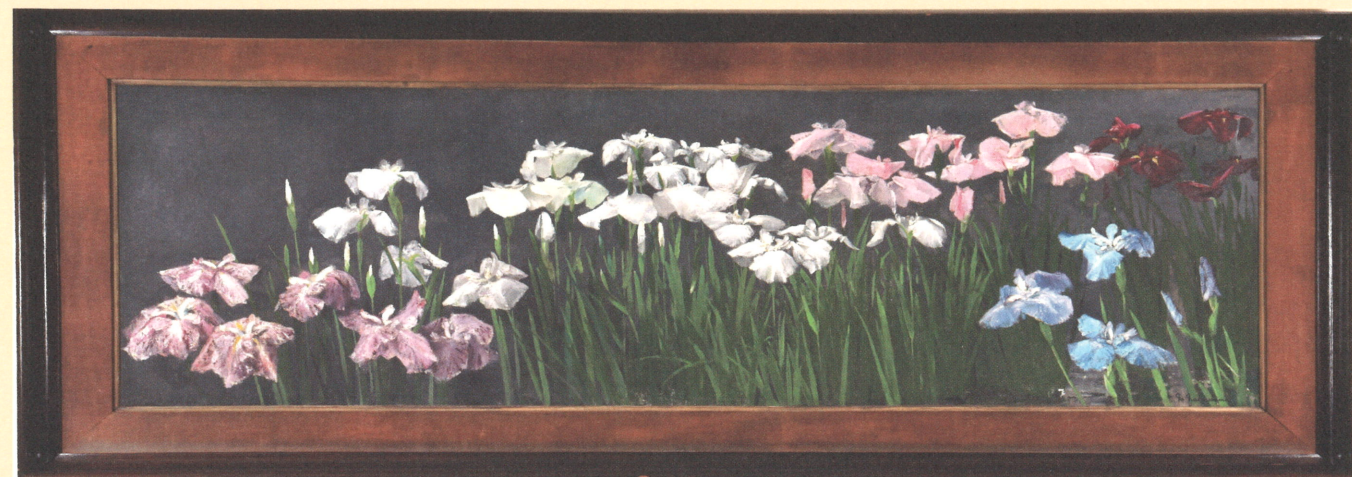
久野 和洋 作 「草花礼讃」



蛇雄 作

「碧の静樹海」

「私は私しか描けない絵を描くことに傾注している。物の形のみならず、その奥にあるものをどう描くか。一センチ四方に絵を切り刻んでも、私の絵とわかる絵を、深い緑、研ぎ澄まされた青「深海のヴィーナス」それが私の絵だ。」



中島 森男 作

「かきつばた群生」

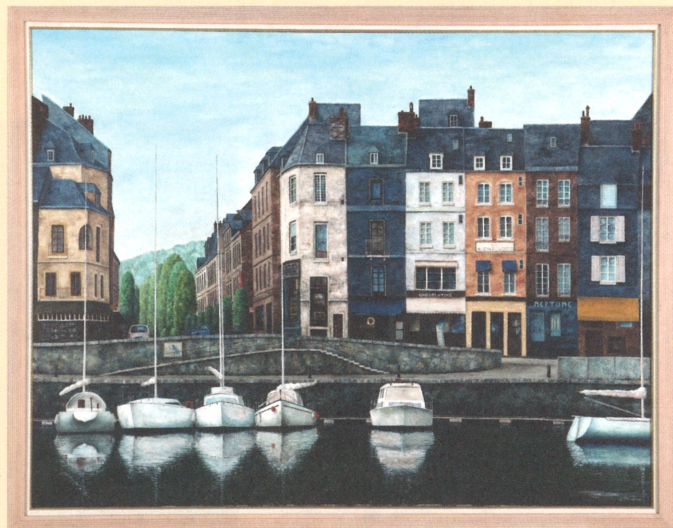
愛知の県花でもあるかきつばた。県内ですと知立市の八橋にあるかきつばた園などが有名です。本作品は、背景を暗くすることで全体的に凜とした空間を出しつつも、花からはまるで光輝くような生命感が溢れています。

細く曲がりくねった路地を、歩いている人に追い越されるくらいゆっくりと走る市電。子どもたちが「つかまり乗り」している。リスボンの風景になくはない人々の足「市電」。



高橋 文平 作

「リスボンの市電」



高橋 文平 作

「オンフルールの旧港」

外の街灯はまだ明けやらぬこのオンフルールの港をほんやりと照らし出していた。夜食を待つ間にテーブルクロス（ペーパー）に空心から見える景色を描き「オンフルール」のスベリングを店の女の子に教えてもらったレストランとのこと。



鈴木 三五郎 作

「新緑常念岳」

常念岳とは飛騨山脈にある山の一つです。作者は、本作品のような風景や静物画を主に描きました。バランスのよい構図のなか、伸びやかな筆致と、木々の緑や空と山の青といった鮮明な色づかいにより、情感豊かな画面に仕上げています。



伊藤 勲志 作

「群れ」

性格は、穏やかでおとなしいヤギ。しかしこの作品では、ヤギの力強い独特の作調で描くことで、内に秘めた野性的な強さを感じとれます。また、群れを描くことでより、その迫力を増しているようです。



磯谷 桂治 作 「オルセー美術館」(水彩)

「芸術の都、パリ」の名にふさわしいオルセー美術館。イタリア建築の旧オルセー駅舎を改造し、1986年に開館。19世紀後半から20世紀初頭までの絵画、彫刻、工芸等を展示。セーヌ川が陽光を反射してパリを明るく照らしています。



中嶋 岩雄 作 「カリブ海とサトウキビ」

作者はブラジル在住の画家で、陽気な南米らしい、明るくて鮮やかな色彩で描いています。本作品では、カリブ海とその沿岸に住む人々が一体となった営みをほのぼのと描出。少しコミカルな表現が見る者を楽しくさせます。



生田 文治郎 作 「修理船のある港」

愛知県碧南市に住む画家。地元の漁港風景に魅せられ、それを本作品のように、落ち着いた色調としっとりとした質感で描き続けています。現在の風景を後世に残していきたいという作者のやさしい思いが伝わってきます。



待井 恭子 作 「翠のプレリュード」

初めは「空気」という題名がついていました。作者にとって、絵画はモノを並べるのではなく、そこに漂っている空気、そして自身の心を通した色彩で描かれたものです。空間が上手に描けるように、新境地を開きたいと語っています。



鈴木 順一 作 「鳶ヶ崎遠望」

鳶ヶ崎は南知多にある海沿いの町。夏は海水浴や潮干狩りで有名。作者はこの地の出身で港やそこで働く人々に魅了され、点描による多くの鮮やかな作品を手がけています。きらめく海と心地よい潮風が感じ取れます。



野村 卯 作 「メルクの僧院」

オーストリアにあるメルク修道院は世界遺産に指定されています。本作品では、手前に階段を大きく描き、遠くに修道院を望むという大胆ながらよくまとまった構図をとりました。日光が反射してきらめいているようです。

「そうすい」の題名は、色のイメージの響きからです。筆で何度も薄い絵の具を塗り重ね、より透明で深い表現を目指しました。ある日友人がアトリエを訪れたとき、シャンソンを聞きながら画想が浮かんだ思い出の作品。



楠 崇子 作 「蒼翠」

セーヌ川にはさまざまな形の橋が架かっています。本作品中のものは、ボン・デ・ザール（芸術橋）というパリで最初の鉄製の橋。それも含め、画面全体をやさしい色彩とメリハリある筆致により、爽やかに仕上げています。



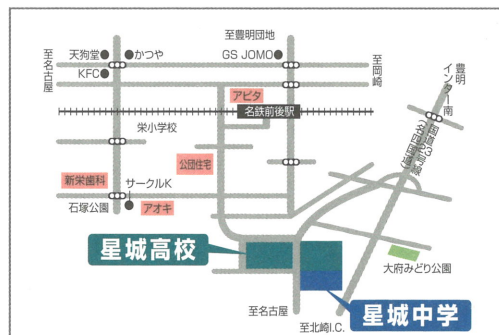
小林 雅英 作 「ラ・セーヌ」

油彩画家作品リスト集

画家	作品	号数	所属	出身地
三岸 節子	「火の山にて飛ぶ鳥」	12号	独立美術協会	愛知県一宮市
杉本 健吉	「遊蝶花」	10号	国画会	名古屋市
楠 崇子	「蒼翠」	154×123	日洋会	名古屋市
待井 恭子	「翠のプレリュード」	133×165	光風会	名古屋市
久野 和洋	「草花礼讃」	120号	立軌会	名古屋市
橋本 博英	「初夏の明神ヶ岳」	88×108	フリー	岐阜県岐阜市
	「麦秋の丘」	100×70	フリー	岐阜県岐阜市
笠井 誠一	「赤いポットのある卓上静物」	120号	立軌会	北海道札幌市
蛇 雄	「碧の静樹海」	120×435	フリー	愛知県岡崎市
鈴木 順一	「鳶ヶ崎遠望」	39×48	一水会	愛知県東浦町
鈴木三五郎	「新緑常念岳」	12号	日展委嘱 光風会	愛知県幡豆郡
中島 森男	「かきつばた群生」	100×380	フリー	名古屋市
野村 卯	「メルクの僧院」	122×163	一水会	愛知県東浦町
生田文治郎	「修理船のある港」	116×168	彩日会	愛知県碧南市
高橋 文平	「リスボンの市電」	50号	一水会	愛知県刈谷市
	「オンフルールの旧港」	120号	一水会	愛知県刈谷市
中嶋 岩雄	「カリブの海とサトウキビ」	50×57	外国在住日本人在外作家	愛知県半田市
伊藤 勲志	「群れ」	136×200	春陽会	愛知県豊橋市
島田 章三	「花と人の空間」	116.7×90	国画会	神奈川県横須賀市
小林 雅英	「ラ・セーヌ」	80×118	フリー	愛知県尾張旭市
磯谷 桂治	「オルセー美術館」(水彩)	80×110	日本美術家連盟	岐阜県可児市
加藤 孝	「季節が舞う」(パステル画)	120号	新芸術協会	愛知県安城市



加藤 孝 作 「季節が舞う」(パステル画)



〒470-1161 豊明市栄町新左山20
Tel:(0562)97-3111 Fax:(0562)97-2015
URL: <http://www.n-ishida.ac.jp/>

星城美術館

Seijoh Art Museum

<星城高等学校内>

学校法人名古屋石田学園

星城大学・大学院 / 星城高等学校 / 星城中学校 / 星の城幼稚園
星城大学リハビリテーション学院 / 名英図書出版協会
協力 星城高等学校同窓会 星城懇話会

その他、未掲載油彩作品

画家	作品	号数	所属	出身地
待井 恭子	「午後のパストラル」	133×65	光風会	名古屋市
高橋 文平	「ポルト」	80×67	一水会	愛知県刈谷市
仙波 英雄	「収穫の喜び」	100×80	日本版画院会員	名古屋市
磯谷 桂治	「秋の野尻湖」	88×120	日本美術家連盟	岐阜県可児市